



みささ 議会だより



第114号 平成30(2018)年 10月号

主な内容

- 一般会計決算を認定・・・・・・・・・・2～4
- 常任委員会で慎重審査・・・・・・・・・・5～6
- 先進地から学ぶ・・・・・・・・・・7
- 議員5人が一般質問・・・・・・・・・・8～12
- 議案の賛否・・・・・・・・・・13
- 町民登壇・・・・・・・・・・14

竹田地区大運動会

みんなで作った人文字

南小学校創立56周年を記念して
ドローンで撮影

一般会計決算審査特別委員会

9月14日に一般会計決算審査特別委員会（山口博委員長）を開催しました。この委員会は5名の委員で構成され、総務教育・産業民生常任委員会で審査した一般会計決算の内容を、さらに細かく審査するものです。その結果、原案のとおり認定すべきものと決定しました。

平成29年度 一般会計決算を認定

鳥獣被害総合対策事業

問 シカの防護対策はどうなっているのか。町内の処理施設を利用しやすくする方法はないか。

答 来年度に向けて防護柵等のシカ対策事業が補助対象の適用になるよう県と協議していきたい。町内の処理施設は県猟友会が運営しており、運営方法等については、今後協議していきたい。

公共施設の維持管理計画

問 公共施設の維持管理について、施設ごとの管理計画を検討することになっていたが、現状はどうなのか。

答 公共施設の個別管理計画については、国から平成32年度までに策定するよう要請されているが、建物について約60施設の内、策定ができているものは9施設であり、その他の施設は所管課で策定を進めている。なるべく早期の策定に向けて取り組んでいきたい。

チャイルドシート購入助成事業

問 現行のチャイルドシート購入助成が終わったが、子育て支援の面から助成は今後も継続すべきではないか。

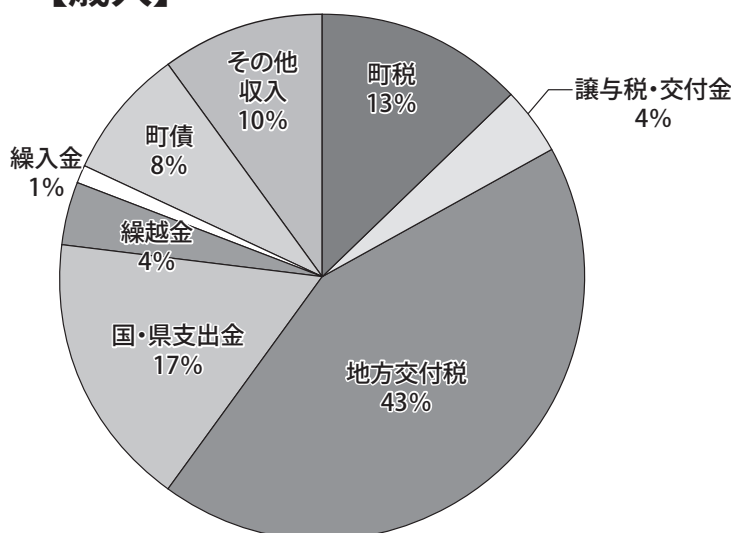
答 法改正に伴い購入助成を実施、18年が経過し当初の目的が達成されたことから廃止とするものである。子育て支援の観点から事業の継続の意見が議会からもあり、平成31年度の当初予算に向けて子育て支援施策として総合的に検討していきたい。

名勝及び史跡三徳山史跡等買上げ事業

問 三徳山周辺の土地買上げに際しては、早急な管理計画策定を行うべきとしていたが、管理計画の策定に至っていない理由と今後の計画は。

答 保存管理計画が必要なことは認識しているが、平成30年度の作成予算がつかなかった。また、国との事前協議の中で三徳山に隣接する小鹿溪を含めた保存活用計画を策定するよう指導され

【歳入】



歳入内訳	(万円)
町 税	67,363
譲与税・交付金	17,390
地 方 交 付 税	217,361
国・県支出金	87,435
繰 越 金	19,634
繰 入 金	4,193
町 債	38,360
そ の 他 収 入	51,629
計	503,365

ており、今後は、教育委員会で素案を作成し、国の補助金を受けられるよう国・県に働きかけを行っていきたい。

消防団組織の再編

- 〔問〕 人数不足により消防の出動ができない団があるが、適正な人員配置となるよう近隣の団との再編を図るなど考えていくべきではないか。
- 〔答〕 班によっては活動が難しくなっているところがあり、地区団ごとに実情に応じた再編成等の協議していただいている。11月以降、幹部会や審議会において方針が示される予定である。



操法大会

退職消防団員報償金掛金

- 〔問〕 条例定数と実団員数とが乖離していることから、掛金に無駄が生じている。
- 〔答〕 現在の定数は354人で、実団員数は317人。このため、定数を330人にするよう消防審議会に諮る予定である。

バス対策事業

- 〔問〕 多額のバス運行事業補助金を支出する中、路線バスを今後どうするのか、根本的な見直しが必要ではないか。
- 〔答〕 公共交通機関としての役割を維持していくためには、現在の負担は仕方ないと考えている。今後、具体的な取り組みとして、小学校統合におけるバスのあり方を検討する必要があり、地域の声も聴きながら進めていきたい。

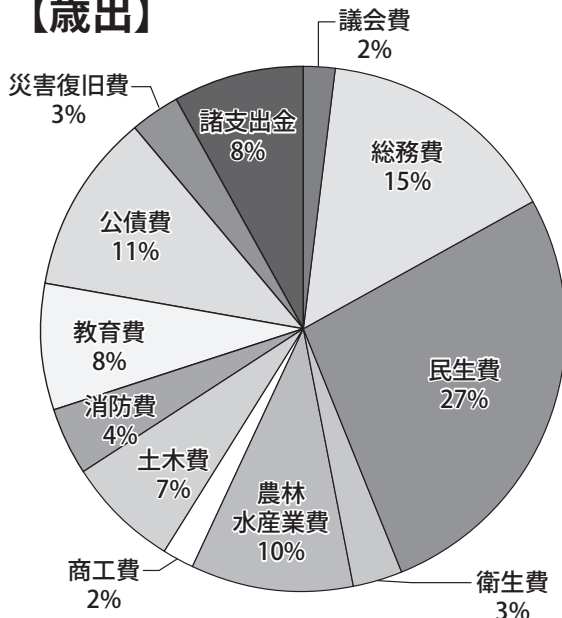
放課後児童対策

- 〔問〕 学童クラブの個人負担金を中部の自治体と同レベルに軽減してもよいのではないか。
- 〔答〕 学童保育料について本町では児童一人あたり月3,000円、中部の他自治体は2,000円程度となっているが、自治体によっては利用状況に応じて加算額が設定されており、加算額を含めると本町と近い料金となっている。このような状況から現在の三朝町の料金は適切であると考えている。

多目的展示施設（バイオリン美術館）指定管理

- 〔問〕 中部地震以降入館者数が減少している。入館者数や収益増対策が必要ではないか。
- 〔答〕 入館者数は年間5,000～7,000人、月平均180～330人で推移してきたが、今年4月～8月の入館者数は月平均530人となっている。ようやく5年かけて知名度が上がってきたものと考え。今年に入ってから旅行会社によるツアー、さ

【歳出】



歳出内訳	(万円)
議会費	7,929
総務費	74,860
民生費	132,918
衛生費	16,501
農林水産業費	47,625
商工費	10,039
土木費	33,918
消防費	20,679
教育費	40,331
公債費	52,902
災害復旧費	14,413
諸支出金	42,460
計	494,575

らに9月～10月は毎年恒例の「弦展」が開催され、更なる集客が見込まれる。入場者が増えれば収入も安定してくると考えている。



三朝バイオリン美術館

じんかい 塵芥処理経費

問 町指定ごみ袋の単価（個人）が、他の地域に比べて高いが、今後単価を下げることはできないか。

答 現在の単価は平成16年に大袋1枚当たり50円と設定した。この価格設定によりゴミの排出量が減少したという効果があり、今後も続けたい。今後子育て世帯や低所得者の対策として値段を下げることを検討したい。

特定健康診査費等事業費

問 健診の受診率が停滞しているが、その理由と促進のための対策がなされているか。

答 健診の無関心層へいかに理解してもらうかが重要で、地道に啓発活動をしていきたい。一番効果のある啓発は口コミと考え、健康に関する地域のリーダーを養成し、リーダーからの声掛けも検討している。

国民宿舎（ブランナール）事業出資金

問 指定管理の効果についての検証が必要ではないか。また、指定管理に出した場合と出さなかった場合の町費負担の見込みは。



ブランナールみささ

答 指定管理となり1年半、今までを検証し今後どのような経営をすべきか模索され、原価率の問題、ICTの導入による効率よい運営、料理の改善等に取り組まれた。また熱気浴施設が完成し1日に20～40人が利用されている。

町費の負担については、1年間に4～5千万円の赤字を出していたが、町にとっては新たな負債が増えることはなくなった。今後も出資金の大半が返済にまわるので、なるべく早く償還を終わらせるように努めたい。

一般寄付金の活用

問 一般寄付金として1億円の寄付があり、半分の5千万円は観光振興に使って欲しいとのことだったが、基金に積み立てて観光振興に活用がなされていない。今後の活用計画は。

答 観光振興基金の今後の予定としては、岡山大学旧熱気浴施設の跡地に計画している新しい熱気浴施設を建設する際に、補助金や起債等でまかなえない部分に活用しようと考えている。その他の使途は観光関係者と協議して決めたい。

上水道の災害時対策（停電時）は

問 上水道の災害時対策（停電時）は出来ているのか。また、供給単価と給水原価が逆転しているが、漏水対策などの計画をしているか。

答 現在の配水池は4日程度の容量があるが、停電時の対応として重要なポンプ施設2カ所には発電機の設置も考えたい。

平成29年度の水道会計決算は250万円の赤字であり、収支のバランスをとるために料金改定等を検討し、併せて漏水対策を進めていきたい。

三朝保育園跡地（町有地）の利用計画は

問 三朝保育園跡地の利用計画はどうなっているか。

答 三朝保育園跡地は現在更地となっている。今後の利用については色々な意見を聞いて協議して決めたい。

常任委員会で 慎重審査

委員会における主な質疑

総務教育常任委員会

消防施設整備費

問 更新した古いタンク車やポンプ車の処分はどうなっているか。

答 官公庁オークションで売却している。

食育推進事業

問 味噌汁の塩分測定はどのような方法で実施しているか。家庭で簡単に測定する方法はあるのか。

答 食生活改善推進委員が地域に出かけて公民館等で測定しているので味噌汁を持参することで測定してもらえる。簡単な測定器を配布する事業もあるので、相談して欲しい。

健康診査受診率

問 健康診査の受診率の向上は、比例して費用の増を伴うのか。

答 受診率の向上は受診者が増えるので費用増を伴うが、受診で病気の早期発見、早期治療につながり、医療費全体の抑制につながる。

社会福祉協議会の修繕費積立金

問 修繕費積立金は大規模な修繕に備えて町と社会福祉協議会が積み立てるとしているが、ほ



レスポワールドみささ

とんどが修繕に支出され積み立てとなっていないので、今後、修繕費としてスムーズな支出ができるよう変更してはどうか。

答 今後大規模な施設修繕が必要となることが予想されることに加えて、現状でもエアコンの修繕が必要であり、スムーズな支出の方法を検討したい。

レセプト点検等経費

問 レセプト点検等経費を支出しているが、点検によってどれだけ減額となっているか。

答 平成29年度は220万程度の過誤調整となっている。医療機関のレセプトを点検、指摘することで医療費の請求ミスを防ぎ、適正な医療費請求につながる効果があると考えている。

※レセプト点検とは
患者別の医療明細書（レセプト）に不備がないか点検する行為

高齢者タクシー助成

問 高齢者タクシー助成の条件は。

答 当初は要介護認定者を対象にスタートしたが、現在は75歳以上

の高齢者だけの世帯も対象としている。子どもとの別居等の条件があるが、色々な例に対して現況確認や事情聴取で適否を判断している。



UDタクシー

小学校施設改修費

問 小学校施設改修費807万円の内訳は何か。

答 西小学校の校舎内塗装費540万円、黒板のホワイトボード化費用270万円など。

学力向上事業

問 学力向上事業で購入したデータベース5教科はどんな内容でその利用方法は。

答 内容は、国語、社会、数学、理科、英語の5教科で、先生が生徒に合わせた問題を簡単に作成できるシステム。

産業民生常任委員会

荒廃農地

問 住んでいない人の農地が荒廃して、隣の農地に崩れる事が町内で発生している。何とか対策はないか。

答 現場を確認に行った。荒廃している農地が、下の耕作していない荒れた農地に崩れている状態で、農地災害の対象外となっている。仮に、不在地主等で荒廃した農地が耕作している農地に崩れるような事が発生した場合、今後、対策が必要と考える。

三朝町水道事業会計決算

問 以前に上水道の強^{じん}靱化計画をするとの事だったが、進行しているのか。

答 計画的に順次耐震の管に替えている。今後は配水池の強化などに取り組んでいく。

問 給水原価146円、供給単価130円というのは、供給単価より原価の方が16円も高いということか。

答 経費をかけて水を配っていることになっている。昨年一部漏水があり、漏水の部分が見つかったので、今後は若干少なくなると思うが、いずれにしても逆転現象になっている。

がんばる地域プラン事業

問 特選三朝米ブランド化促進事業で提携されている旅館が5軒だが、それ以外はお米が高いから提携しないのか。



荒廃農地の対策は

答 値段というよりは、提携されている旅館は、使う量が多く、年間使っていただいているが、中小になると使用量が少なく、それぞれルートを持っておられて、色々と取引等あり、全体の窓口を一本化できていないのはそういう事が影響している。

値段格差は町の方が高い。施策の違いなのか。

答 倉吉は30円で、町は50円。平成16年に値上げした経緯があり、値上げによりごみの量も減っている。県内では中部は三朝町より安いかもしれないが、三朝町より高い市町もある。政策的に見てどこに力を入れるかだと考える。

じんかい 塵芥処理経費

問 倉吉のゴミ袋と町のゴミ袋の

経過説明

岡山大学旧熱気浴施設用地

用地の購入については、8月20日付で岡山大学と売買契約を締結した。現在、基本設計により準備を進めており、今後は実施設計に向けて進めていきたい。

三徳山ウォーキングセンター土地の返還

地元と協議している経過として、センターと駐車場は、土地貸借契約書に返還の際は原形に復するものと定められている事から、建物等の撤去を検討していた。しかし地区から活用したいとの要望があり、取り壊しにも費用がかかることから、今のままの形で返還する方向で進めている。

先進地から学ぶ

総務教育・産業民生の各常任委員会は、次のとおり先進地を視察し学んできました。

総務教育 常任委員会

視察期間： 平成30年7月2日～4日

(1) 滋賀県多賀町

本町と多賀町は昨年8月に姉妹都市盟約を締結した。多賀町の子育て支援や高齢者交通支援について視察した。

- ・育英資金制度：給付型の奨学金制度
- ・新入生学用品支給制度：小中学生にランリュック、スポーツバッグ等を支給
- ・愛のりタクシー制度：スーパー、病院等を運行地域とした予約型のタクシー
- ・運転免許自主返納支援制度：愛のりタクシーの回数券や路線バスの回数券を交付



交流町の子育て・高齢者施策を学ぶ
(多賀町)

(2) 三重県大台町

大台町大杉谷地域は99%が山林で豊かな森林資源を有しているが、急速な過疎化により、高齢化率70%超の限界集落となっている。

児童数が激減したことから旧大杉谷小学校が廃校となったが、閉校が決まった時点から住民が主体となり、跡地利用を検討した。

廃校は官設民営型のNPOが運営する大杉谷自然学校（自然環境教育施設）や大杉谷地域総合センター（デイサービス施設）として利用されている。

(3) 視察を振り返って

両町とも積極的な計画と実行力により、町民福祉と活性化を推進している。本町においても歳出抑制だけでなく、投入すべきは積極的に、簡素化すべきは簡略し、メリハリをつけて町政に当るべきと考える。

産業民生 常任委員会

視察期間： 平成30年7月4日～6日

(1) 長野県小布施町

葛飾北斎の肉筆画等を展示する美術館をオープンしたのをきっかけに、官民一体、住民主導で町中が美術館のように綺麗な町に整備しようと動き始めたのが、町並修景計画の原点になっており、約40年以上かけて事業計画を見直しながら現在に至っている。

また、観光協会は、行政や周辺観光協会等と連携をとり町並み案内サービスの充実に努めている。

(2) 長野県伊那市

平成19年をピークに人口減少に転じ、減少傾向に歯止めをかける為、前期平成26年～30年度／後期平成31年～35年度にかけ、移住定住に係る計画を策定し、事業を展開している。

景観計画は「風土・風景・風格」を継承する事を目的として、産学官により組織された「三風の会」による活動が進められている。



ガイドによる町並み案内（小布施町）

(3) 視察を振り返って

長野県の小布施町は、コンパクトな町並みの中で隣近所同士が垣根を取り払い、観光客をはじめとする外部からの人たちの受け入れに努めている姿勢に共感した。

また、伊那市では、移住定住に力を入れた取り組みを進めるとともに、景観に対する市民の意識が高く、住民が主体となった街づくりに取り組んでいる活動が参考になった。

防災

問 自然災害への対応、危機管理のあり方

答 集落ごとに自主防災体制づくりを進めていく

○避難所開設の対応

松原

7月豪雨の際の自主避難所では、食事の用意がないことが放送された。食事の提供等、避難所における基本的な考え方が欠落しているのではないか。

町長

7月末の台風12号からは、食事や水、毛布等を提供できる体制にしており、避難所対応は適宜改善していく。

○危機意識の改善

松原

本町はこれまで比較的自然災害が少ないことから、町民の危機意識の低さにつながっていると感じる。避難情報を発信する町と、それを受ける町民が情報に対する共通認識を持てるようにすべき。

町長

「自分は大丈夫、ここは大丈夫」という意識がある。災害に対する情報の共通認識を持っていただくことが出来るよう、避難情報の意味、勧告や避難指示の出し方等、町報等で啓発に努めたい。

松原

町には防災計画、初動対応マニュアルがあるが、全職員が理解しているのか。



林道崩落

町長

梅雨時期に入る6月に全職員に徹底している。

松原

災害対応には反省点もあると思う。将来に備え、反省点をいかした準備や見直しをすることが必要であると思う。

町長

災害対応が終わった時点で、その都度、職員が反省項目を危機管理局に出しながら、次の災害に対する対応にいかしている。

○実態に即した防災対策

松原

町が配布している防災マップが活用されているかどうか、検証する必要がある。

町長

活用はまだまだ十分ではないと思っている。防災のための座談会の開催等も呼び掛けていきながら、防災教育の充実に向けていきたい。

松原

集落ごとで地形や人口、年齢構成等が異なっている。各集落の実態に合わせた対応を行うためにも、それぞれの集落に出向き、防災についての話し合いを持つことが必要だと思う。

町長

消防団や各地域、集落とも、いざという時の協力体制や役割分担について話し合っていく。地域協議会とも相談しながら、集落に出掛けていくことを進めていきたい。



松原茂隆議員

○満水時のダムの放流は大丈夫？

松原

西日本豪雨災害では、ダム満水時の放流のあり方が問題となった。県企業局の中津ダム、小鹿第2発電所調整池について、企業局と町との合意形成は出来ているのか。

町長

企業局では、雨量のピークを想定して出来る限り早い段階で放流を行う、放流開始予告を早める、必要に応じて企業局の職員を役場に派遣するなど、施行しながら作業が進められている。安全性の確保に向け、さらに情報共有と連携を図っていききたい。

○最善の対策目指す

松原

いくら予防策を講じて、自然の猛威を相手に絶対の安全はない。最終的には、町民一人ひとりの危機を感じる力を養うことが大切である。今後、さらに災害に強い三朝町に向けた町長の思いを伺う。

町長

近年、私達が経験したことのない自然災害が全国各地で発生している。地域の防災力を高めていくため、自助・共助・公助の観点で、本町にあった最善の危機管理対策の構築に向けたい。

誘客

問 グリーンツーリズムで内外からの誘客を

答 多様な観光メニュー創出で誘客を目指す

○温泉にプラスの新しい観光メニューの創出を

山口

宿泊客が伸び悩む三朝温泉にとって、豊富な自然の資源を活用して、誘客につながる新たな観光メニューの創出は喫緊の課題である。

町長

三朝には温泉と組み合わせる豊かな自然などがあり、これらを活用することは三朝温泉の魅力ある新たなメニューになりうる。

○グリーンツーリズムで町内みんなが潤う誘客を

山口

三朝温泉と豊富な自然環境を組み合わせたグリーンツーリズムは、今後誘客の大きな要因となり、同時に町内みんなが潤うことも期待される。

町長

旅館と提携しながら、農業体験やホテルやカジカゲルや星空など四季折々を感じる取り組みがグリーンツーリズムの在り方だと思う。

○行政主導でリーダー養成を

山口

グリーンツーリズムの成功には優れたリーダーが不可欠であり、町主導でのリーダー養成が不可欠である。

町長

望ましいリーダー養成は観光サイドからと受け手側である農業者や地域の若手の中からリーダーを養成していくのが良いと思う。



田園風景

○フランス出張でグリーンツーリズムの情報収集を

山口

町長はフランスへ行かれるが、この機会を利用してグリーンツーリズム先進地の情報を是非収集されたい。



山口 博議員

町長

今回のフランス訪問で少しでも先進地の状況を見て来たい。

○台湾定期便の開設で一層の誘客を

山口

香港からの来客は増加傾向にあり、定期便効果を感じている。

台湾と県、北栄町や三朝町は色々な面で交流が盛んであり、是非とも定期路線の開設を進めるべきである。

町長

本町も姉妹都市協定を結んでおり、中学生の交流や旅館組合の交流もある。

定期便就航に向けて県と共に推進に努めたい。

○外部視点のアドバイスで魅力アップと誘客を

山口

外部の方をアドバイザーやモニターにして三朝温泉の魅力アップを図ってはどうか。

町長

町でも外部の方を招致してアドバイスを得たいと思う。商工会でいろんな方を招いて勉強しておられ、このような機会を作っていきたい。



三朝橋

おもてなし

問 おもてなし心で三朝温泉の魅力アップを

答 各方面のアドバイスを聞いて魅力アップを図る

○町外者の視点～おもてなし心

山口

町外資本の女将さんと話す機会があり、三朝温泉の問題点等を指摘された。

中国自動車道から三朝温泉に来る時、岡山県側に三朝温泉への案内表示が少なく不親切であり、おもてなしの心が感じられないとのことであった。

町長

スムーズに三朝温泉に来ていただくための道案内は大切なおもてなしの要素である。山陰道から

も含めて将来的に案内表示のあり方を整理したい。

○町主導で温泉街の空き店舗解消を急ごう

山口

温泉街は町外者から見ればいかにも寂しい印象を与えており、町主導で早急な空き店舗解消対策が必要である。

町長

少しずつ利用されるようになったが、まだ未利用がある。商工会等で利活用について取り組んでおられ、支援しながら情報を共有したい。

観光

問 町内全体の観光振興に対する行政対応は

答 地域や関係団体みずから企画立案された事業を支援する形があるべき姿

○観光地周辺環境は行政のテコ入れも必要では

松原

本町は、観光振興に力をいれ、年間を通して大勢のお客様に来ていただき、お金を使っていただくことで直接的収入と税収増により全町が潤う姿が望ましいのでは。

町長

三朝温泉が核となって、三徳山、農林業との連携を深めることで稼ぐ観光地になり、全町の活力が増していく関係に結びつくのが理想と考える。

松原

三朝温泉は、宴会型から健康志向型「現代湯治」への取り組みを進める方針が示されているが、日本遺産認定の三朝温泉と三徳山を柱に、周辺に賑やかな温泉街や土産物店等を整備し、来られた方々が散策され、買い物や食事等で楽しく遊び、また来たいと思ってもらえる環境作りには、民間努力だけでなく行政もテコ入れが必要ではないか。

町長

町内では観光商品造成支援事業などを活用して、地域資源を生かした観光メニューの造成や特産品開発の動きもあり、地域の皆さんや関係団体みずから積極的に企画立案された事業に対し、行政が支援する形があるべき姿と考える。

松原

インターネットの口コミに、町全体の一体感がない、温泉街が寂しい、時間が潰せない、旅館から出ないのか等が上がっているが率直な意見は。

町長

口コミ評価は、気づいていないような指摘があるなど、観光にとって一つの財産であり、気にとめながら改善していくのが大事だと思う。

○町内行事を一覧にして観光資源に活用しては

松原

年間通しての集客、あるいは活性化を考えた場合、色々な祭りやイベントを実施されている地域や集落、例えば「坂本観音まつり」や小鹿溪の「もみじまつり」、「秋の竹田御膳を楽しむ会」等の催し物を育てることは、観光資源の充実や地域振興に寄与すると考えるが。

町長

三朝温泉では、季節のイベントが計画されており、年間を通じて何か楽しいことがあると思っていただけるようウェブサイトや雑誌媒体等でPRし観光振興を図っている。

松原

町内の地域や集落で行われる催し物を調査し、全町としての年間行事一覧にまとめ、観光資源に活用するべきと思うが。

町長

行われている催し物を育て、集落や地域を活性化させることは、さらに大切になってくるものと考えており、イベントガイドやSNS等を活用し情報発信できるよう一層の連携を図りたい。



松原成利議員

○集落活性化の支援制度の充実が必要では

松原

活性化に寄与する集落単位の取り組みも、資金面が厳しいと聞いている。現制度「三朝町キラリと光る町づくり支援事業交付金」等の活用は、事業のステップアップや自立が前提であり、単に継続を目的とした支援制度の充実が必要だと思うが。

町長

各地域の特色を生かした取り組みに対し、事業の効果等を検証しながら支援のあり方を再構成する必要と同時に、収支バランスを考えた運営をしていただくことも必要で、皆さんが創意工夫を持って取り組まれる体制を今後も支援したい。相談やアドバイスできる職員もいるので活用していただきたい。坂本の観音まつりは非常にいい祭りだと思っており、長年の取り組みに感謝申し上げるところで、実情や思いを聞き研究させていただきたい。



坂本観音まつり

防
災

問 防災対策はこれでいいか

答 あらゆる災害に対応できる町に

○防災対応

遠藤

7月5日から7日にかけて、大雨警報、土砂災害警戒情報、洪水警報、大雨特別警報が次々と出されたが対応は。

町長

鳥取県内でも初めて大雨特別警報が発令され、あらゆる被害を想定して対応にあたった。

○防災無線放送

遠藤

災害が迫った時、1回だけの放送では聞き逃し等により徹底が不十分で数回の放送が必要。

町長

その後の台風の対応から複数回行っている。

○災害に対する避難対応

遠藤

独居老人、障がい者等々介助が必要とされる人への安否確認、避難の意思の有・無等々、どの様に対応されているか。また、病院・介護施設等連携はとれているか。

町長

平成27年度に作成された、みささ避難支援プランに基づき、福祉協議会、民生委員、消防団、地域協議会等の協力を得ながら福祉避難所や医療機関への避難誘導を行う体制をとっている。

○避難施設の確保

遠藤

町内避難所として、一時避難所は各集落公民館、指定避難所には地区公民館、多目的研修施

設等がある。各地区毎に完全な避難所を設けることが大事だと思うが。

町長

避難所を新たに整備することは難しい。状況により集落の公民館など身近で安全な場所を避難所として指定することも考えていく。防災意識の高揚とあわせ周知に努めたい。

○洪水・浸水

遠藤

文化ホールは洪水に対して避難施設から除外されている。浸水等が発生すれば機能しない。防災倉庫も庁舎敷地内にある。いずれの災害にも対応可能な施設であるためにも、高台への移転も考慮しなくてはならないのでは。

町長

すべての指定避難所や防災倉庫について、あらゆる災害を想定しながら必要な改善、整備に取り組んでいく。

○集落で訓練

遠藤

災害への対応は常日頃からの訓練と共存・共助の立場で被害から逃れるのが一番の近道だと思うが。

町長

自主防災力が必要。1つでも多くの集落で訓練を行うことができるよう準備を進め呼びかけていきたい。

○意識の高揚

遠藤

特別警報は何十年に1回しか



遠藤勝太郎議員

出されない警報だという。もう少し災害に対する避難意識を高めないと、生命を守ることが一番大事だと思うが。

町長

これくらいなら大丈夫、うちは大丈夫だという意識もあり改めていきたい。県が1つの指針を作りかけている。町もまとまった段階で対応する。

○出前裏山診断

遠藤

2013年から県が出前裏山診断をしている。県市町村の職員が合同で集落にある土砂災害危険箇所を見てまわり診断するそうだが、本町はされているか。

町長

町はやっていない。そういうことは活用して診断していきたい。

遠藤

今、何かと自主避難だと文化ホール1本やり。町内に指定避難所があるのだから活用されたい。



防災マップ

総合戦略

問 新学習指導要領に沿った新しい小学校の建設を、1日も早く町民に示すべき

答 10月に入れば、段階を追って具体的な提案をお示しできる

○統合に向けた進捗

清水

現在の進捗状況は？

町長

町報9月号で配布の通り。新小学校の校名を「三朝小学校」と教育委員会で決定し、町民の皆さんのご意見をいただいている。校歌の歌詞に入れたいフレーズも公募している。

○町長の説明責任は

清水

町長は、小学校3校統合について、説明責任を果たすべき。

町長

これまで情報公開や説明が不十分で、3校統合について合意形成が十分にできているとは言いきれない。今後は丁寧な説明に心がけ理解を得られるように努力したい。

○新学習指導要領に沿った校舎の建設は

清水

平成32年に完全実施される新学習指導要領に沿った新校舎の建設は？

町長

現在、教育委員会で小学校統合後の校舎の方向性を提案する資料を作成している。その結果を踏まえて、統合後の校舎のあり方を提案する予定としている。10月に入れば、段階を追って具体的な提案

をお示しできる。

清水

来年度で新学習指導要領に沿った校舎を建設できるのか？

町長

心配ご無用。新学習指導要領に沿って校舎を造っていくのが本来の姿。

○縁結びの支援は

清水

総合戦略では、「出逢いイベント参加者数 5年間1,000人」「婚姻数 150組」となっている。来年度で達成できそうなのか？

町長

平成29年度まで実績は、出逢いイベント参加者数205人。婚姻数は73組で、いずれも目標には届かない。

○婚姻数の拡大は

清水

専門職員を配置したり、婚活イベントを計画実行したりしながら、婚姻数を増やしている自治体もある。三朝町においても内閣府の「地域少子化対策重点推進交付金」を活用して、来年度予算には是非、婚姻数を増やす為の対策を盛り込んでいただきたいと考えるがどうか。

町長

婚姻数を増やす為の対策については、関係機関と連携した取り組み



清水成眞議員

みを今後も続けていく。また、内閣府の「地域少子化対策重点推進交付金」の活用については、内容を精査して研究をしてみたい。また、西小鹿では、集落で出会いの場を設ける取り組みをされている。

○出会いの場を広げる取り組み

清水

結婚するためには、人と人が、どんな形であれ出会わなければならない。これは意図してできるものではない。正確には出会いが起る偶然性を上げる取り組みをすれば、出会いの偶然性が上がる。つまり、計画的に自らその偶然をつくり出すような行動ができる場を作ればいいと思う。例えば、「みささ温マルシェ」の様な取り組みを多数、開催するというのはどうか。

町長

形はどうであれ、一つのテントで出会い関係の人たちだけで1日何か売ったりすることはいいきっかけになると考える。主催者に投げかけてみたい。

民全員に配布し、運用を開始したもの。総合検診・特定健診・町民運動会・各ボランティア活動等でポイントがもらえ、1ポイント1円として加盟店で使える。

町長

非常に参考になる取り組みである。商工業・農業、事業者の皆さんと十分に調整をして、活性化対策として取り組んでいきたい。

活性化

問 住民総参加型の行政ポイント制度「ラドンギフト」(仮称)を考えてはどうか？

答 来年度に向けて制度設計を考え、また、活性化対策として取り組んでいきたい

○岡山県奈義町の取り組み

清水

奈義町では、今年度7月に全国初の取り組みとなる、住民総参

加型ポイント制度「ナギフト」を開始。この「ナギフト」は地域経済の活性化をねらいとして、買い物や地元の活動に参加するとポイントが貯まるカードとして、町

【議案に対する賛否】

議案番号	議員名（議席順） 議案名	松原 成利	松原 茂隆	石田 恭二	吉田 道明	山口 博	清水 成眞	藤井 克孝	遠藤勝太郎	平井 満博	山田 道治	牧田 武文	福田 茂樹	結 果
町長提出議案名														
	(7月臨時会)													
44	平成30年度三朝町一般会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
45	財産の取得について（小型動力消防ポンプ積載車）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
46	財産の取得について（小型動力消防ポンプ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
47	財産の取得について（除雪ドーザー）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
	(9月定例会)													
48	専決処分の承認について（平成30年度三朝町一般会計補正予算（第4号））	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
49	平成30年度三朝町一般会計補正予算（第5号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
50	平成30年度三朝町国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
51	平成30年度三朝町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
52	平成30年度三朝町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
53	平成30年度三朝町下水道事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
54	平成30年度三朝町集落排水処理事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
55	平成29年度三朝町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	認定
56～65	平成29年度三朝町特別会計歳入歳出決算の認定について（10件）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	認定
66	町道路線の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
67	町道路線の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
68	功労者の表彰について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	可決
69	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	同意
	議員提出議案名													
	(7月臨時会)													
議5	小学校統合の推進に向けての決議	○	●	○	●	○	●	○	○	○	●	○	△	可決

※○は議案に対する賛成、●は反対等であることを意味しています。

※福田茂樹議長を除く11名の賛否状況です。

【陳情】 9月定例会の陳情に対する審査結果です。

件 名	提 出 者	審査結果	審査意見
臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情	移植ツーリズムを考える会	採択 意見書提出	臓器移植を定着させるための環境整備は国民的課題である。
医療機関の診療録開示請求手数料に係る指針に関する陳情	倉吉市 足羽佑太	趣旨採択	現状では医療機関の規模に関わらず一律の料金体系とすることには問題がある。
地方議会の提出する意見書に係る関係行政庁の回答を求める意見書の提出に関する陳情	倉吉市 足羽佑太	趣旨採択	現実問題として全国からの意見書の数膨大であり、対応は困難。
教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択を求める陳情	鳥取県教職員組合 中部支部	採択 意見書提出	教職員定数の改善等は当然の課題として速やかに予算に反映されるべき。



賀茂地域協議会 会長
山崎 一彰

今、地域として何が出来るか

町内6つの協議会は、昨年10周年を迎え、それぞれ独自性を持った活動の中で特徴ある事業展開をしてきております。賀茂地域協議会におきましても、休耕田を活用した人気の『泥んこバレーボール世界選手権大会』は来年15周年を迎え、健康をテーマとした数々のイベント、竹をテーマとした特産品開発など地域ベースの事業を行ってまいりました。

しかし、加速度的に進む少子高齢化の波が地域環境を一変させ、他方で新世代を中心に価値観の多様化が顕著となり、「今、地域として何が出来るか」という新たな視点での取り組みが求められています。

地域対応の一つ目は、永年継続してきた「賀茂まつり」の見直し。全13集落のご意見を集約し、地域の老若男女が一堂に会して楽しめる「全住民参加型」のイベントを平成31年6月に予定しています。二つ目は、永年の悲願であった地域活動拠点づくりの取り組み。地域内にある遊休施設の活用を前提に福祉機能、商業機能、農業課題、更に子どもの育成支援

などの視点も盛り込みながら「拠点づくり構想」を策定いたしました。

本年7月、三朝町に対し要望書として活動拠点施設整備に関するお願いを行っています。

町民の皆様には、こうした地域の新たな動きに深い関心を寄せていただき、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



わたげの会（女性会）で月1回「カフェ」をはじめました

議会の委員会を傍聴しませんか

議会の本会議と委員会は、みなさんに公開しています。議会の審議がどのように進められているのか、直接見てみませんか。

※日程は変更となる可能性があります。

※常任委員会・全員協議会の傍聴には委員長・議長の許可が必要です。詳しくは議会事務局（電話43-3511）にお問い合わせください。

12月定例会の日程（案）

12月10日(月)	本会議（開会・提案説明）
11日(火)	本会議（一般質問）
12日(水)	常任委員会（産業民生）
13日(木)	常任委員会（総務教育）
14日(金)	本会議（質疑） 全員協議会 常任委員会（議会広報）
18日(火)	本会議（採決・閉会）

閲覧できます

全員協議会の会議録をみささ図書館で閲覧できるようにします。閲覧できる会議録は12月定例会分からです。また、本会議の会議録はみささ図書館・町ホームページで閲覧できますので引き続きご利用ください。

発行責任者		議長 福田 茂樹	
編集		議会広報常任委員会	
委員長	遠藤勝太郎	委員長	松原 成利
副委員長	松原 成利	副委員長	清水 成眞
委員	吉田 道明	委員	松原 茂隆

今年七月の西日本豪雨で、本町にも大雨特別警報（数十年に一度の強度）が発表され、避難勧告が出され最大級の警戒を呼びかけられたが、切迫感は伝わらず避難者はほとんどなかった。

想定を超える事態はいつどこで起きてもおかしくない状況である。防災、減災に対する備えは需要度を増している。町民の防災意識を高め災害に強い町づくりを目指したいものだ。

（遠藤勝太郎 記）

おわりに
ちよつとひとこと